

若者へ信仰をつなげよう

少年会総会・春学近づく

若年層の育成を推し進めるべく、少年会本愛団では、3月23日に「第55回総会」を開催する。

また、本愛学生会では、3月28日に本部で開催される「春の学生おぢばがえり」への参加を呼びかけている。

少年会本愛団では、「第55回総会」を、3月23日午前10時より大教会で開催する。本年は十二下りてをどりまなびを少年会員だけでなく、育成会員も共に、大教会神殿上段で8交替で勤める。また午後からは、少年会員を卒業する中学3年生を対象に「成人門出式」が執り行われ、その後は、境内地や華洲館を会場に模擬店やゲームコーナーが催される。

学生の皆さんへ

今年の春の学生おぢばがえりは、私にとって委員長として初めて参加するものになります。今回は他教区の学生と「横のつながり」を濃くできる機会にできればと考え、さまざまな企画を考えています。一人でも多くの学生さんのご参加をお待ちしています。

本愛学生会委員長
瀧みずほ



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

立教188年 春の学生おぢばがえり

3月28日、親里では「立教188年春の学生おぢばがえり」が開催される。本愛学生会では、前日の27日から1泊2日の団参を計画。27日には前夜祭が行われ、本愛学生会も参加する予定。また28日には本部中庭において式典が執り行われ、真柱様のお言葉を賜る。参加する学生たちは、地域や学校では出会えなかった仲間たちと有意義な時を過ごすことができる。行事を通して教友との友情を深め合い、道の学生としての自覚を高める貴重な機会に大勢の参加が望まれる。

27日は午後1時30分に大教会に集合・出発。解散は28日午後5時頃となる。参加対象者は、高校生（新1年生を含む）・大学生・短期大学生・専門学校生・大学院生などで、申し込みは、参加御供5千円を添えて大教会神殿事務所へ。

入社祭・春季靈祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
鼓笛隊練習日	16日	午前10時
こども食堂M.O.G.U	17日	午後5時
婦人会例会	20日	午前10時
少年会本愛団第55回総会	23日	午前10時
女子青年例会	23日	午前10時
本部月次祭	26日	午前9時
修養科志願者面接	26日	午後2時
春の学生おぢばがえり (於 本愛詰所)	28日	午前10時
春の学生おぢばがえり (於 本部中庭)	28日	午前10時

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

教祖はそのことを見抜き見通しで、冒頭のお言葉をくださったのです。また、「あいそづ

かしゃ、すてことば、切口上は、おくびに

もだすやないで」とのお言葉も残っています。

教祖の三女で梶本家へ嫁がれたおはる様は、7人の子供を授かった後、産後の患いから出直されました。

周囲が悲しむ中、教祖は

「神さんがな、のぞみどぼりにしてやつたのやで、なげくことはあるまいがな」とおっしゃったそうです（『正文遺韻』より）。

実はその少し前、夫の惣治郎氏は、おはる様との間で小さな諍いがあった際に

「かじや如きが、御地場の娘さんとは、しゃうがあらん。勿体ない。いんで呉れん（鍛治屋の自分が教祖の娘さんを頂戴するなんて、そもそももったいない話だ。どこかに行ってくれ）」と口にしたのでした。

（中略）心に覚えがなくなる。そこですてるやうな言葉や、きる様な言葉が、ぢきにでようとす。それではどうもなりません。少しでも、人の上にたつものは、上にたつだけ、それだけ人をつなぐやう、そだてる様の心が合ひ助合ひである。



何か気に食わないことがあつたとき、つい相手との縁を切ってしまうような捨て言葉を出してしまいがちですが、神様はそうした言葉もすべてそのままお受け取りになる、口に出してはならないのだと、このお話は戒めています。

病さえなくなる

さらに『正文遺韻』はどのように続けています。かりそめにも、人を見

すてるやうなことば、人との中をきる様な言葉は、

これきり口上、すてことばでござりませう。互立

合ひ、助合ひは御道の眼目、人間の精神とせにや

ならん。（中略）

又いちく、やゝもすれば、口にはいふてゐる

ことばではあるけれども、すこし腹がたつと、これを

すぐにわすれてしまふ。（中略）心に覚えがなくなる。そこですてるやうな

言葉や、きる様な言葉が、ぢきにでようとす。それではどうもなりませ

ん。少しでも、人の上にたつものは、上にたつだけ、それだけ人をつなぐ

やう、そだてる様の心が合ひ助合ひである。

是、立合ひ助合ひである。

さらに詳しく調べてみると、教祖は「切口上はおくびにもだすやないで」とお

話しになつておられるそうです。「愛想づかし、捨て言葉、切り口上、これはかなわん

これさえかのうたことならば、五臓六腑の病さらにな

し」（矢持辰三『教祖伝入門十講』より）

人との縁を切るやうな言葉を出さないようにするだ

けで、健康さえ保たれる。それだけ言葉というのは大切

だということですよ。最近、よく「神つてる」と

いう言葉が使われます。奇跡のような、神がかつた出

来事、人のことをこう表現するようですが、私はいつ

でも誰もが「神つてる」のだと思います。どんなとき

も親神様・教祖はお見守りくださっていることを、忘

れないようにしたいと思います。

公式サイトと YouTube をご活用ください！

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想



言わん言えんの理を探る

冬の間、厳しい寒さに耐えてきた桜の蕾がふくらみ始めました。自然の精緻な営みを感じるこの頃です。

おさしづに、さあくふしく、ふし無くばならん。ふしから芽が出る。

(明治22年5月12日)

とあります。教祖は植物の節にたとえて、現れてくる身上や事情というふしがあるからこそ、心が成長し信仰の成人もできることをご教示くださいました。

大教会史を繙くと、本愛の道もおよそ十年ごとにおふしから芽を出して、教勢を

伸展させてきた様子がよくわかります。

主なものを挙げると、教会設立から十年余り経過した昭和初期、まだ五十代の初代会長様に見せられた身上と、時を同じくして突如沸き起こった教会の立ち退き移転というふしがありました。また創立三十年の旬には、戦時下における大教会階級という、苦難と喜びが交錯するふしがあり、さらに五十周年を目指す時代には、初代会長様のお直しと、伊勢湾台風の大ぶしが重なりました。これは今も記憶に残っている人もおられることでしょう。

親神様が私たちにふしを見せられるのは、ひとえに心の成人を急ぎ込まれるか

らであつて、決して苦しめよう困らせようとの思召ではありません。人間の都合からすれば、身上も事情もなく万事順調に事が運んで、平穩な人生を送ることが幸せという考え方もある

かもしれないが、植物でも節のある木とない木とでは、成長の度合いや植物としての強さも異なります。これと同じように、人間も数々の節を経験することで心が強くなつて、喜びの味わい方が格段に大きくなり心の成人が果たされていくのではないのでしょうか。

■キーワードは喜び

さて本愛大教会は昨年、創立百十周年を迎え、現在は教祖百四十年祭へ向かう

歩みが続けています。教祖年祭を十月月後に控えた今の旬、いかに心の成人を圖つていくか。この思案をさらに深めていく努力が求められています。

具体的なキーワードを挙げるならば「喜び」ではないでしょうか。うれしいことを喜ぶのは誰にでもできます。しかし、そうでない身上や事情というふしに遭遇した時、その出来事を教祖のひながたに照らして、そこに喜びを少しずつ見出していく信仰の力。これが混迷を深める現代社会を照らすようぼくの輝きです。教祖はこの心の治め方を「たんのう」と教えられ、先人は「たんのうの心こそ、人生をつなぐ種である」との信念を私たちに伝えてくださいました。つまり喜びにくい事柄を、喜びに変えようとする努力が天に届いて、家族の絆が深まり、夫婦・親子団欒の喜びが味わ

えるのです。そしてたんのうの信仰が深まれば深まるほど、家族や社会や金銭とのつながりも深くなるのが天然自然の法則で、本当の幸せを味わえる道筋を示してくだされたのが、教祖ひながたの道であります。

一方、植物が成長していく裏側では、根が大地から水分と養分を吸収している事実も忘れてはなりません。根があつてこそその幹であり枝葉であり、花であります。私たちの信仰の根はごぼににあります。ごぼに心を尽くし、たすけの根源であるごぼに多くの人をお連れ帰ります実践が、ふしから芽を出すためのエネルギーとなることを改めて肝に銘じたいと思います。

来年一月二十六日の教祖百四十年祭を目標に、たんのうの信仰を家族で磨き合いながら、三年千日仕上げの年を一步一步陽気な心で歩んでいきましよう。

(第122回)

たんのうの心を家族で磨き合ひ
ようぼくの輝きで世を照らそう

信仰の喜び、おたすけの喜びを
教祖のもとへ

うちわけ会 おぢばがえり

強調月間

立教 188 年 6 月及び 11 月

12月の初席者

松原治道(本耕)

お出直し

村松三代子氏(本心部属・
本心宮分教会初代会長夫
人)

1月22日に出直された。
享年91歳。告別式は1月25
日午後1時より、長江邦
彦・本心分教会長を齋主と
して執り行われた。

おぢばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう!

第1006期 修養科生大募集

《集合・面接》 ☆日時…3月26日 午後2時 ☆場所…本愛詰所

※3月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

大教会日誌

令和7年1月25日～令和7年2月24日

1月

26日 本部春季大祭 祭主・大教会長 扨者・田中新一、吉田克義

31日 常任役員会議◇役員会議 指図方・都築隆道 賛者・山本治行、鈴木真也

2月

1日 入社祭 ◇祭典講話一和光重男

祭主・大教会長 扨者・杉村善男、伊藤寿輝 ◇大教会長挨拶 青年会例会

指図方・和光重男 賛者・杉下和平、野田正樹 14日 布教実修所

◇祭典講話一大教会前会長 16日 むつみ会例会

2日 よふき会例会 17日 こども食堂MOGU

おつとめ・十二下りてをどり 20日 婦人会例会 委員部長講習会

12日 常任役員会議 講話一安藤ちかい・本愛支部長

13日 月次祭 24日 女子青年例会